

SHIRAKOBATO

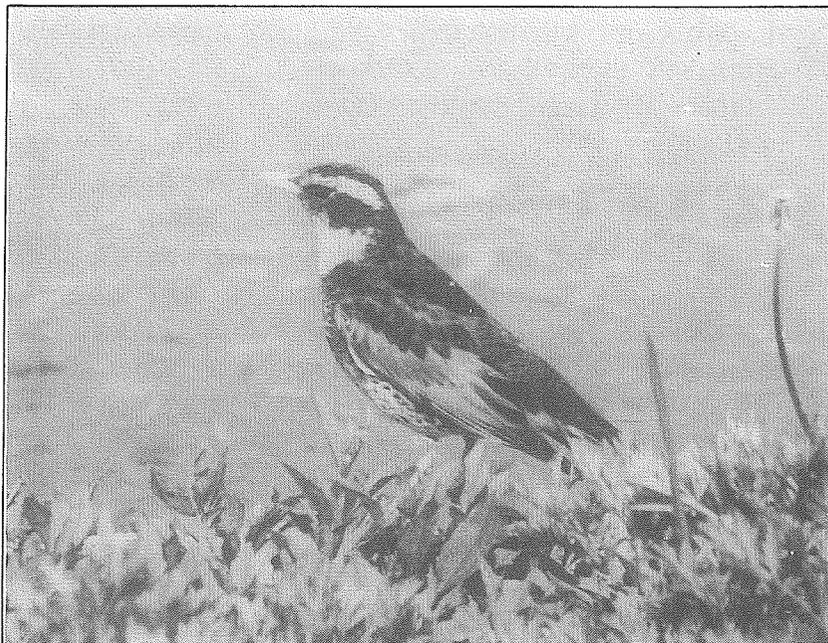
しらこぼ



1989. 4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 59

日本野鳥の会 埼玉県支部

平林寺(新座市)

昨年度の特集は、埼玉県支部の代表的な探鳥会地9カ所の紹介でした。しかし、支部が成長するにつれ、探鳥会の回数も増え、楽しんでいただきたい探鳥会地も増してきました。

そこで、今年度の特集も同じ内容を続行したいと思います。また、ときおり、それ以外の特集も入れて、アクセントをつける予定です。どうぞ、お楽しみに…。

(1)はじめに

みなさん、新座市にある平林寺と言うお寺をご存じですか？実際に行った事がない人でも、その名前ぐらいいは聞いた事があるのではないのでしょうか。この平林寺は総面積約43万㎡あり、その広々とした境内には杉や赤松、梅、竹などの様々な樹木が林立し、それがまた古い建造物と実によく調和しているのです。

その境内の広潤かつ静寂な雰囲気は、武蔵野の面影を色濃く残して、なかなか渋くて良いのです。なんてったってこの平林寺の雑木林は、日本の残したい自然百選の中にもしっかり入っているし、国の天然記念物にも指定されているのですから…。そんな平林寺の探鳥コースをこれからご紹介したいと思います。

(2)探鳥コース

探鳥コースといってもそんなおおげさなものではなく、ただ単に境内の散策路を順路に従って歩いて一周するだけの事なのです。距離としては約2km程度で、時間的にみても鳥を見ながらのんびり歩いて1時間半といったところです。探鳥というよりも、ちょっとした散歩気分で歩いてみたら良いのではないかと思います。



(3)春から夏

春先(時期は3月中旬頃が良い)のお天気が良い日など散歩がてら出かけてみるといいですよ。山門をくぐると梅の花の香が漂ってきて、ふと目をやると仏殿の周囲の梅の木に蜜を吸いにきたメジロのかわいらしい姿が見られます。こんな風景を見ていると『春なんだなぁ…』と実感させられたりします。

さらに順路を進んでいくと、松平家の墓所周辺の笹藪の中からウグイスの春を告げる声が聞こえてきたりします。野火止塚のあたりで足を止めてボーッとしていると、そろそろ山地へ引越す準備をしているのか、ルリビタキがせわしなく動き回っていたり、また頭上ではシジュウカラやヤマガラなどの群れが飛び回っていたりします。こんな時はむしろ鳥の方から近づいて来てくれるんですよ。

途中、ホオジロやイカルの明るい声も聞こえてきたりして、春を満喫できますよ。

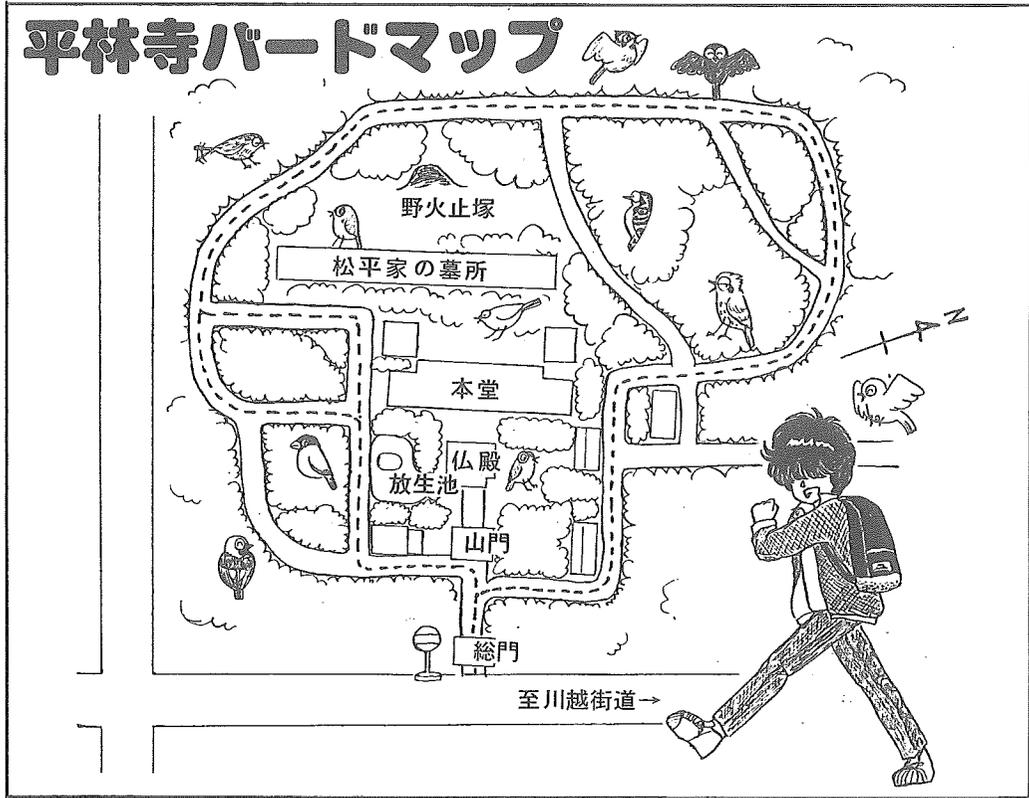
初夏になると、鳥はちょっと見づらくなってしまいます。こんな時は探鳥ではなく、美容と健康のためのお散歩と割りきって、歩いてみて下さい。それでもシジュウカラやコゲラ、ヒヨドリ、ムクドリなどの常連さんが見てちょうだいと言わんばかりに自己主張してくれます。

(4)秋から冬にかけて

木の葉が色づきはじめる頃になると、平林寺境内にも遠方よりお客様がやって来ます。

ツグミやジョウビタキ達です。この秋から冬にかけての季節は平林寺の探鳥の中で最もおいしい時期なのです。昭和60年の秋にこの平林寺で行われた探鳥会では、なんとマミチャジナイが見られちゃったりしています。他

平林寺バードマップ



にも近年はあまり見られなくなりましたが、年によってミヤマホオジロが見られた事もあるようです。さてこの時期の注意としては、上ばかりでなく下にも目を向けるという事です。平林寺境内は下草が刈られているので、見通しがよくきき、鳥が探しやすいからです。

ほら、よく注意して見ていると、地上になにやら動めくものが…。ビンズイやシロハラ、トラツグミなどが地上をヒョコヒョコ歩いています。他にもシメやカシラダカの群れが一生懸命採食していたりして、その姿を見て思わず『がんばって寒い冬を乗り切るんだよ。』と激励したくなったりします。たまに上を見ていると、アオゲラが淋しそうにしていたりして…。他にも夏の間お留守にしていたルリビタキ、アオジ、ウグイスなどの小鳥達もその姿をチラッ、チラッと見せて私達を十分楽しませてくれます。

(5)終わりに

平林寺についてざっと紹介してきましたが、ここは本当に良い所です。探鳥地としても十

分魅力がありますが、武蔵野の面影を残しているこの自然環境の良さはとても素晴らしいと思います。いつまでもこの自然を残しておくために私達も努力したいものです。みなさんも機会がありましたら、是非一度平林寺の雑木林を歩いてみて下さい。なお入山料は大人200円、子供100円で、入山時間は午前9時から午後4時までです。交通手段は下記の通りです。

- ①東武東上線志木駅南口より西武バスひばりが丘駅行で約15分。平林寺前下車。
- ②J R 武蔵野線新座駅より徒歩20分。
- ③東武東上線朝霞台駅（J R 武蔵野線北朝霞駅）より西武バス平林寺、または東久留米、清瀬行バスで約13分。平林寺前下車。



(黒田佳子)

1989年ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告

日本野鳥の会 埼玉県支部研究部

1月15日、全国一斉ガン・カモ・ハクチョウ類調査が実施され、埼玉は1月16日を調査日と定め、ガン・カモ科のカウント調査が行なわれました。当日は移動性高気圧が日本列島をおおい、穏やかな日となりました。今年、狭山湖と菖蒲公園（昭和池）について広く会員の方々の参加をいただき、他地区はそれぞれ調査員をお願いし、県内で45名の方の御協力を得ました。

各調査地の1988年に比較した増減状況は、狭山湖が40%、大麻生、明戸が35%、百穴湖が65%、古利根川が65%と大きく減少し、渡良瀬川遊水池南部の一部が新しく貯水池となり新たに10,890羽を数えましたが、他地区は例年並みでした。1988年は約19000羽、渡良瀬遊水池を除いた県内では17900羽で総数では昨年とほぼ同様な結果が得られました。

調査に参加いただいた皆様、ありがとうございました。

(執筆 小荷田行男)



調査地	荒川				
	新荒川大橋 荒川鉄橋	荒川鉄橋 戸田橋	秋が瀬橋 羽根倉橋	大麻生 明戸	川
調査範囲	所沢市	川口市	川口市 戸田市	浦和市	熊谷市 川本町
コハクチョウ					8
オンドリ					
マガモ	137		2	83	67
カルガモ	173		129	107	
コガモ	314	20	24	19	94
トモエガモ					
ヨシガモ					
オカヨシガモ				4	
ヒドリガモ		14	39	8	
アメリカヒドリ					
オナガガモ	18	89	90	21	1
ハンビロガモ				15	
ホシハジロ	12		58	169	
アカハジロ				2	
キンクロハジロ	9		2	197	
ホオジロガモ	1				
ミコアイサ					
カワアイサ					
カモSP					
種数	7	3	7	10	4
合計	664	123	344	625	162
調査者数	14	1	1	2	1

調査地	荒川						
	古利根川 寿橋 堂面橋	入間川	利根川 飯東大橋 下流	渡良瀬川 遊水池 貯水池	昭和池	百穴湖 大沼	森林公園
調査範囲	越谷市 松伏町	狭山市	本庄市	北川辺町	久喜市	吉見町	滑川町
コハクチョウ			6				1
オンドリ							
マガモ	4	7	736	*	759	380	2,086
カルガモ	120	101	1,058	*	2,083	43	1,116
コガモ	95	331	764	*	4,070	91	6
トモエガモ			2		6		
ヨシガモ	4			*			
オカヨシガモ	2		21		2		
ヒドリガモ	140	5	120	*	45		3
アメリカヒドリ	1				2		
オナガガモ	101	137	402	*	772	3	213
ハンビロガモ	2	17	19	*	30	18	
ホシハジロ					18	87	
アカハジロ							
キンクロハジロ					36	5	
ホオジロガモ							
ミコアイサ			2	*			
カワアイサ			18	*			
カモSP				10,890			
種数	9	6	11	9	11	7	6
合計	469	598	3,148	10,890	7,823	627	3,375
調査者数	1	1	3	4	14	4	1



突然ですが
高橋夕香子 (深谷市)
私は昨年末から今年の初めにかけての4日間、北海道のウトナイ湖サンクチュアリのボランティアに参加しました。

オオハクチョウが渡ってくるここでの冬場の主な仕事はまず10時の氷割りです。これはあまりにも有名なウトナイの名物で、「人生

に悩んだ時、恋に疲れた時、水割りより氷割り」という歌もある程です。ユースホステルの前の湖に給餌、離着水の為の開水面を作る作業なのですが、手・足・頭をすっぱりと覆う黒いゴムのスーツに身を包み（愛称をウルトラマンスーツと言います）、手にしたつるはしなどの思い思いの道具でなるべく大きく「面」として割ります。そうして割った氷は溶かす為には凍った湖面の下へどんどん押し込んでゆきます。これがあらまじですが、なにしろ厚さが10cm以上もあるのですから容易ではありません。しかも悲しい事に良き理解者

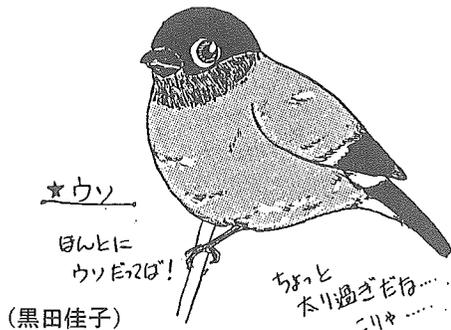
であるはずのハクチョウ達は作業が始まるや否やさっさと遠くへ逃げて行き冷たい視線を投げかけてきます。ここでは全面氷結する12月から3月まで毎日この作業が続けられるのです。

13時からは給餌です。餌は大豆。時には会員の方からパンや米などの善意の贈り物もあります。この時、カウントをするのですが、私の滞在中はオオハクチョウが約200羽、コブハクチョウは本州へ渡ったのでしょうか1羽しかいませんでした。

センター内には全国各地の支部報、野鳥誌のバックナンバー、自然関係の書物、ここで行なわれている研究の資料などがあり自由に関覧する事が出来ます。また私の滞在中にはバンディングをなさっている方がいらっしゃいましたし、貴重な方の貴重な話を聞ける可能性もありますので、何か研究をされている方が行かれても面白いのではないかと思います。

いつも大畑レンジャーをはじめ、3人の職員の方がいらっしゃいます。ボランティアには地元の常連の方々、各地の会員、大学の自然保護研究部の学生さんなどが入れ替わり立ち替わり常時7人くらいが参加していました。お互い活発な意見の交換などが行われ、ここは全国の会員の交流の場となっている様です。

最後に、ここウトナイ湖は千歳空港から車で20分という大変便利な所にあり、千歳川放水路問題を始めこれからも様々な開発の憂き目に晒されてゆく事でしょう。10年前ここをサンクチュアリに決めたのも開発の手を食い止めようという思いからでした。日本第一号のサンクチュアリです。皆で守ってゆきたいものです。



■■■■■■■■■■ 阪東大橋探鳥会 ■■■■■■■■■■

堀越省一 (本庄市)

前日の雨もあがり、当日は上毛三山もくっきり見える上天気でした。受付場所の阪東大橋北詰めでは、はやひばりが上空でさえずり、私達を歓迎していました。ここは小生のホームグラウンドで、毎週ウォッチングしている所ですが、探鳥会として参加してみると、又興味がかわり、ふだん観ている野鳥達にも新鮮さを感じられました。カモ類やホオジロ、ツグミ等の他に真赤なベニマンコ、カワセミ、ノスリがたてつづけに姿を見せ、なかなか歩が進みませんでした。とり合せでは41種も確認され、更に林さんの手作りのナメコ汁のおいしさも加わり最高でした。

担当の皆様ありがとうございました。

■■■■■■■■■■ 冬鳥調査はがきから ■■■■■■■■■■

もうすぐ、このまわりの山は全部ゴルフ場になってしまいます。何年か後、見られる鳥は何種類になっているのでしょうか？そして、住めなくなった鳥たちはどこに行ったらいいのでしょうか。

松本 由 (飯能市)

今年は珍鳥が多く、毎週土曜日に探鳥しに行くのが楽しみです。東京都のほうまで探鳥しています。今年は東京都のほうではやけにシロハラが多いようです。冬鳥調査の報告楽しみにしています。がんばってください！

遠藤 薫 (所沢市)

今年は鳥が少なくなりました。家が増えたからでしょうけれど、淋しくなりました。やはり足を延ばさなければ、多くの種類は見られないのです。

原口郁子 (入間市)

鳥鳥情報

オカヨシガモ ◇1月16日、浦和市秋ヶ瀬の荒川で4羽(福井恒人、亘)。◇2月12日、本庄市の阪東大橋下流で♂♀各1羽。ぴったり寄り添って流れを下る(町田好一郎)。

アメリカヒドリ ◇1月4日、戸田市の戸田橋付近の荒川で♂1羽(高橋達也)。

カワアイサ ◇2月11日午後4時20分、本庄市の阪東大橋下流で♂10羽♀18羽。きれいな隊列で上流に向かって泳いでいたが、♂1羽が、みごと魚をつかまえてからは、シツチャカメツチャカの大騒ぎ(町田好一郎)。

ノスリ ◇1月28日、所沢市並木上空で1羽(三上信彦、宮寺 充)。

チョウゲンボウ ◇1月21日、所沢市美原町で1羽(宮寺 充)。

クイナ ◇1月16日、狭山市の智光山公園野鳥観察小屋前で1羽。大きなドジョウをひとつのみにする(久保田忠資)。

クサシギ ◇2月6日、所沢市の下富遊水池で1羽(所沢北高校生物部)。

タカブシギ ◇2月6日、所沢市の下富遊水池で4羽(所沢北高校生物部)。

セグロカモメ ◇1月4日、蓮田市の八幡橋上流の元荒川で2羽。2月5日には6羽(畠山 愿)。

コミミズク ◇2月8日午後5時、本庄市の阪東大橋下流で1羽。アシ原の中にいたが、ハンターの犬に追い出され、余程あわてたのかオオタカのとまっている木立に逃げこむも、今度はオオタカに追いたてられて右往左往(町田好一郎)。

フクロウ ◇1月3日夕方から夜9時頃まで飯能市の自宅裏で鳴く(松本 由)。

ヒメアマツバメ ◇2月3日、入間市の豊水橋付近の入間川上空で10羽ほどが乱舞(久保田忠資)。2月11日にも同所で6羽(三田長久)。

ヤマセミ ◇2月7日、日高町巾着田の高麗川、ドレミファ橋上流で2羽(西村光雄)。

カワセミ ◇1月16日、狭山市の智光山公園野鳥観察小屋前で1羽(久保田忠資)。

◇1月29日、越谷市の古利根川、堂面橋付近で1羽(神場真文)。◇1月29日、越谷市の古利根川、新方橋付近で1羽(神場真文)。

アオゲラ ◇1月3日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。◇1月28日、坂戸市西坂戸の城山の雑木林で1羽。立枯れの木をつついて穴をあけていた(増尾節子)。◇1月29日、北本市石戸宿で♂1羽。2月19日にも観察する(吉原俊雄、早苗)。◇2月15日、日高町巾着田の天神橋下手で♂2羽(西村光雄)。

アカゲラ ◇1月29日、長瀬町の宝登山で♀1羽(藤原寛治)。◇2月15日、日高町巾着田のドレミファ橋付近で♀1羽(西村光雄)。

コゲラ ◇2月4日、大宮市盆栽町の自宅の庭で1羽。杏の太い幹をはい上りながら、時々とまってはコツコツとついていた(藤本儀辰)。

モズ ◇2月20日、浦和市鹿手袋で♂が電線にとまってヒバリのさえずり。2月24日、♀のそばに寄って聞かせていた。♀がうっとりしていたかどうかは不明(海老原美夫)。



(押川歳子)

シロハラ ◇12月24日、大宮市日進町で1羽
(森本國夫)。

ウグイス(初鳴き) ◇2月19日午前6時30分、浦和市大間木の自宅付近で「ホホ、ホケ、ホーホケ」とまだ、なさけない鳴き声(大武百合子)。

ヒガラ ◇2月10日、大宮市北袋町の自宅の庭で2羽(浅沼源太郎)。

ヤマガラ ◇1月4日、北本市石戸宿で1羽(吉原俊雄)。

オオジュリン ◇1月22日、北本市石戸宿で1羽(吉原俊雄)。

コジュリン ◇1月7日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽。1月11日には2羽観察する(高橋達也)。

アトリ ◇1月22日、北本市石戸宿で1羽

【4月のみどころ】

今月号が届く頃には秋ヶ瀬探鳥会は終わりますが、浦和市の秋ヶ瀬公園ピクニックの森は3月～4月にあゝのレンジャクが訪れる場所として知られています。ただレンジャク類は年によって渡来数に差があり、全く見られない年もあります。今冬はキレンジャクの当り年のようです。昨年暮には奥日光で千羽単位の群れが現われたそうですし、各地で大きな群れが観察されていますので今年は期待してもよさそうです。県内で見られるのはヒレンジャクが多く、キレンジャクには滅多に会えません。今年はキレンジャクにも会えるかもしれません。年によっては、5月の連休過ぎまでいることがありますので、探鳥会に行けなかった方も一度出かけてみてはいかがでしょうか。ピクニックの森の中央を南北に横切る道沿いの林を探してみましょう。ムクド

表紙の写真

昨年(2009年)の天皇誕生日の4月29日に秋ヶ瀬に行った。鳥の撮影は本気で考えていなかったの、短い105ミリまでのズームレンズ1本しか持っていなかった。なのにツグミがわざわざ近くに飛んで来た。

ツグミ (ヒタキ科ツグミ亜科)

お別れ前に最後の記念写真を撮ってあげようとか何とかツグミに話し掛けながら、バシッとシャッターを切った。ツグミはツンとすましてポーズをとった。

(写真と文・日笠達夫=東村山市)

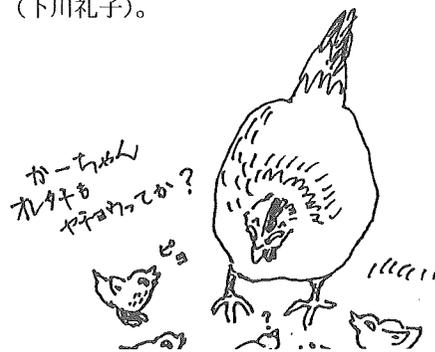
(吉原俊雄)。

ベニマシコ ◇2月10日午後4時30分、本庄市の阪東大橋下流のネコヤナギの枝で♂1羽。夕陽をあびて胸の赤が一層鮮かだった。もう気持は軽井沢…ルンルン!!(町田好一郎)。

イカル ◇1月26日、所沢市の航空記念公園で37羽(所沢北高校生物部)。

スズメ(部分白化) ◇2月7日、浦和市の白幡沼で初列風切の1枚と次列風切の1枚がそれぞれ左右対称に白化した個体が1羽(海老原美夫)。

カラス(部分白化) ◇1月29日、越谷市の古利根川で尾羽が部分的に白い個体が1羽(下川礼子)。

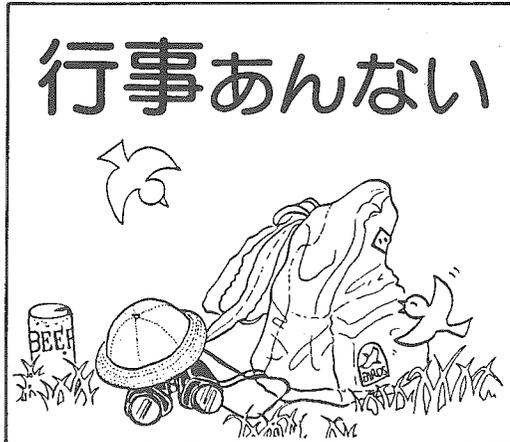


(押川歳子)

り位の大きさで、木から木へ群れて移動している鳥がいたなら、多分レンジャクでしょう。

フクロウの仲間のアオバズクも今月の下旬頃には渡ってきます。青葉のでる頃に見られるミミズクなのでアオバズクといわれるそうですが、意外に早く渡ってきているんですね。毎年飛来している場所近くのしげみや竹林を探して下さい。長旅の苦勞を物語るようにボロボロの衣装を着て、ひっそりとしている姿に会えるかもしれません。たぶん近くにはもう1羽いると思います。(藤原寛治)

バードフォトコンテスト入選作



熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月9日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9：04発→大麻生9：12着 / 秩父鉄道寄居9：01発→大麻生9：19着

解散：午後1時ごろ

担当：諏訪隆久、鈴木忠雄、榎本秀和、林滋、岡安征也、町田好一郎

見どころ：春の川原、あふれるいのち。人知れず繰り広げられる、小さないのちの営みは、力強く冬から春へと巡っています。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：4月16日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または午前9時 浦和市立郷土博物館前
（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田実、手塚正義

見どころ：そろそろジョウビタキ君ともお別れかな？ 見沼田圃も芝川も春のいぶきでいっぱいです。

東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：4月21日（金）夜～23日（日）

（詳しくは先月号をご覧ください）

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発！

春のシギ・チドリ類県内一斉調査

期日：4月29日（土・祝）

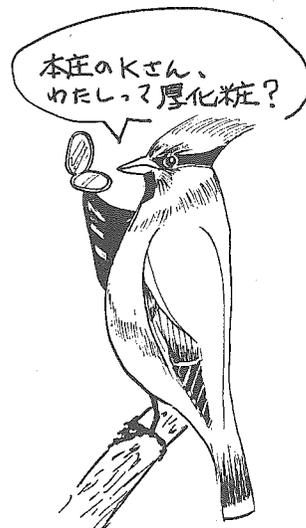
日本野鳥の会埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類について県内一斉の調査を行なっています。特に下記の地点はより多くの会員の方の参加をお願いしたい箇所です。

◇秋ヶ瀬（浦和市・大宮市）

集合：午前9時30分 大久保浄水場の南角、土手の上、水門のあたり

担当：石井智

解散は昼近くになる予定。雨天決行です。調査ですので参加費はいりません、いつもの支度でお気軽どうぞ。



（榎本みち子）

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月29日(土・祝) 午後1時～3時
会場：支部事務局(浦和駅西口を出て左側、三菱信託銀行と日建ハウスの間を歩いて進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、茶色5階建マンションの1階=徒歩約5分=住所は12ページ下欄のとおり)
案内：シギ・チ調査でお疲れのところ、もうひと頑張りお願いします。調査に参加しなかったあなた、率先して頑張ってくれるでしょ。

野鳥写真クラブ定例会

とき：4月29日(土・祝) 午後3時ごろ～
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：写真クラブは、スライドを持ち寄って楽しむみんなのサロンです。あなたも参加してみませんか？ もちろん見るだけのあなたも大歓迎。

神奈川県・多摩川河口探鳥会

期日：4月30日(日)
集合：午前9時35分 京浜急行大師線小島新田駅前
交通：京浜急行線品川9:07発快速特急→京急川崎9:18着、大師線に乗り換え、9:22発→小島新田9:32着
解散：午後2時ごろ
担当：横山みどり、草間和子
見どころ：春の干潟につどうシギ・チドリの群れ(I)。いるわいるわ、大きい小さいの。くちばしの長いの短いの。

千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(金・祝)
集合：午前9時30分 京葉線南船橋駅前
交通：武蔵野線北朝霞8:28発→武蔵浦和8:35→南浦和8:38→南船橋9:25着
解散：午後2時ごろ
担当：杉本秀樹、海老原美夫
見どころ：春の干潟につどうシギ・チドリの群れ(II)。シギ・チと顔なじみになるのなら、大潮の今日がもってこい。

5月7日の探鳥会は、第43回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」キャンペーン行事として、埼玉県の後援で行なわれます。

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：5月7日(日)
集合：午前9時 本庄駅北口
(その後現地までバス利用)
交通：高崎線大宮7:42発→本庄8:49着
解散：午後1時ごろ
担当：北川慎一、林、町田、諏訪、岡安
見どころ：コアジサシ、川面にきらめく初夏の飛翔。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月7日(日)
集合：午前8時45分 蓮田駅東口
(その後現地までバス利用)
交通：東北本線浦和8:13発→大宮8:19発→蓮田8:29着
解散：午後1時ごろ
担当：中島康夫、石川敏男、小林、浅田
見どころ：春泥にたたずむムナグロの群。

浦和市・見沼探鳥会

期日：5月7日(日)
集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または午前9時 浦和市立郷土博物館前
(北浦和駅の場合、その後バス利用)
解散：午後1時ごろ
担当：楠見邦博、森本、渡辺、草間、手塚
見どころ：いつもの三室探鳥会とは違ったコース。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：5月7日(日)
集合：午前9時 東武越生線川角駅前
東武東上線川越8:00発急行→坂戸8:14着、越生線乗り換え、8:35発→川角8:44着
解散：午後2時ごろ
担当：福井恒人、藤原、黒田、長谷、登坂
見どころ：これまたいつもと違ったコース。

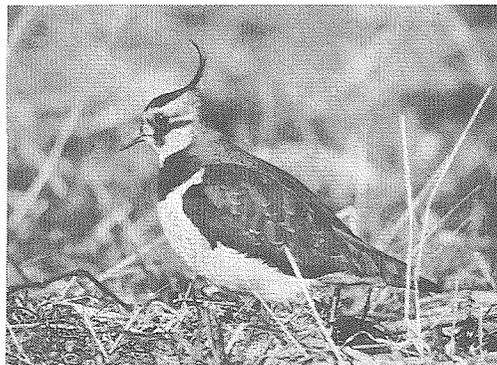
行事報告

1月28日(土)『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 石川順子、岩波勇一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、草間和子、小林恒雄、小林芳江、小山則雄、杉本秀樹、鈴木秀男、鈴木美恵子、登坂久雄、林滋、藤野富代、吉田二三子、渡辺敦 (17人)

1月28日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 21人 **作品発表した人** 7人



タゲリ (鈴木秀男・大宮市)

1月29日(日) 上尾市 丸山公園

人 18人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ コサギ チョウゲンボウ タシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) カワセミの大サービスで参加者の中からため息が聞こえた。終りが近づいた頃小鳥たちが騒ぎ始めたと思ったら上空にチョウゲンボウ。この日は寒かったが心はホットだった。

1月29日(日) 越谷市 古利根川

人 17人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ イカルチドリ ユリカモメ セグロカモメ シラコバト キジバト カワセミ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 雲一つない晴天であったが、三脚が倒れるほどの強風と寒さ。おまけに護岸工事も重なって、頼みのカモもさっぱり。お目当てのアメリカヒドリやヨシガモにもふられてガッカリ。しかし、最後にここでは初認と思われるカワセミが出現。何度もダイビングして参加者を楽しませてくれた。

2月5日(日) 蓮田市 黒浜沼

人 53人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ コサギ カルガモ コガモ コジュケイ バン セグロカモメ キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 市の広報に載せてもらったので、一般の方が30人と多かった。いつもより鳥の出が悪く、会員の方には物足りなかったかもしれないが、初めての方たちはバードウォッチングについて理解してくれたようだ。

2月5日(日) 吉見町 吉見百穴周辺

人 27人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ ゴイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ オオタカ チョウゲンボウ タゲリ キジバト

カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 朝の挨拶前にオオタカが登場して、幸先の良いスタートを切る。道路へ出た所ではアトリが数羽。鮮やかなオレンジ色を皆で堪能した。大沼では期待どおりのトモエガモ。ところで、大沼で発見した霞網については、警察に通報したことは言うまでもない。

2月11日(土) 所沢市 狭山湖

人 61人 天気 晴 鳥 カムリカイツブリ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロ ハジロ ホオジロガモ ミコアイサ オオタカ ハイタカ ノスリ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 3羽のメスのホオジロガモさんが、盛んに潜水を繰返していました。どのくらい長く潜っているのか、潜ると同時にわたしも息を止めて挑戦してみました。とても叶いませんでした。私が苦しくなっても、まだまだ潜っていました。ホオジロガモさんはエライ!!

2月11日(土) 上尾市 丸山公園

人 13人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ チョウゲンボウ コジュケイ タゲリ タシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 前日の雨が一転して快晴に恵まれた。遠くに雪を頂く山々を望み、自然を満喫。カシラダカ

とアトリの群れの中にアカハラのカップルも居た。チョウゲンボウが舞い、カワセミが登場し、とリーダーは大忙し。

2月12日(日) 熊谷市 大麻生

人 41人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ コハクチョウ マガモ コガモ オナガガモ クマタカ チョウゲンボウ イカルチドリ シロチドリ ハマシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 野鳥の森ではホオジロがさえざり、コゲラも観察。河原では、カワセミが指定席に、ハマシギもひなたぼっこ。だが、なんといってもこの日のクライマックスは、澄み渡る青空に吸込まれそうなクマタカの雄翔。心配したコハクチョウは20数羽の優舞。言葉はいらぬ。ただ感激。

2月19日(日) 本庄市 阪東大橋

人 19人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ オンドリ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ミコアイサ カワアイサ トビ ノスリ ウズラ イカルチドリ ハマシギ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマンコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) この日の主役は真赤なベニマンコと真白なカワアイサ。青空を舞うノスリの下面の白さがすけるほど、そして陽に輝くヨシガモの冠の美しかったこと。本庄市の広報課も取材に来て、広報課で3ページの特集を組むそうです。そして、鳥合わせの後は今回も林幹事のご厚意の“なめこ汁”で体を温めました。いつも有難うございます。



本部の評議員会に出席

2月18～19日の2日間、都内渋谷区で開催された評議員会に、評議員＝海老原美夫、オブザーバー＝福井恒人・諏訪隆久の3名が出席、野鳥の会の進む方向についての論議に加わり、また夜の懇親パーティーなどでは、華麗な？評議員会外交を、全国の支部代表者たちとの間で展開しました。

県庁に野鳥を呼ぶキャンペーン

全国野鳥保護のつどい関連行事として、2月13日(月)午後1時から県庁に野鳥を呼ぶキャンペーンが開催され、県支部からは今井昌彦支部長、田村照治・海老原美夫の両副支部長、草間和子幹事、海老原教子会員の5名が出席、今井支部長から畑和県知事にたいし3種11基のバードフィーダーを寄贈しました。

バードソン準備状況

6月4日のバードソンに、県支部からは女性4名のチームが公式エントリーチームとして参加する予定で、準備が進んでいます。

メンバーは、横山みどりキャプテンを筆頭に、黒田佳子、金子真理、高橋夕香子というそうそうたる〇〇グループです。(〇〇の中に当てはまる正しい言葉を記せ)

その名も「埼玉のスイートポテトたち」、応援してください。

ありがとうございます

●次の方々からご寄付をいただきました。

大武昭雄 1,350円(2/19三室探鳥会での個人的バードソン、参加証30種×10円＝300円、珍品賞2種×200円＝400円、感動賞1種×500円＝500円、学習賞1種×50円、など)、草間和子＝望遠鏡など、藤野富代＝紅茶茶碗など。

●次の方からは支部賛助会費(通常の会費との差額分8,000円)をいただきました。

大武昭雄。(いずれも50音順、敬称略)

会員数は

3月20日現在 1,000人です。

活動報告

1月28日 本部で事業部と話し合い(福井恒人事業部長)。

1月30日 『しらこぼと』2月号を郵便局から発送(海老原)。

2月12日 普及部会議、編集部会議、役員会議(関東ブロック会議・合同探鳥会、野鳥保護功労者表彰の推薦、バードソン、その他)。

2月16日 野鳥保護のつどい運営委員会(海老原)。

2月19日 越谷市主催「越谷の野鳥を見よう」で探鳥指導(石川敏男、木村義人、森本國夫、山部直喜)。

2月19日と26日 志木市立第4小の生徒と父兄たちに柳瀬川で探鳥指導(伊藤芳晴、海老原美夫、黒田佳子、佐久間博文、藤原寛治、三田長久、吉田喜代実)。

2月20日 3月号校正(大武昭雄、西城戸司)。



ツグミが初めて我が家の餌台の上まで来てヒエを食べるようになった。大人しくて、スズメやカワラヒワが来ても干渉しない。それに比べてヒヨドリは我がもの顔にのさばっていて、“鶉”という字が与えられているのもうなずける。飛立つときも、地面にまいた餌を食べているアオジやカワラヒワまでも蹴散らす。ヒヨドリの叫びもどこ吹く風の図太さは、ムクドリ。餌台も面白い。(森本國夫)

『しらこぼと』1989年4月号(第59号)

定価 100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦

編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部

☎ 048(832)4062

〒 336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)